

伊勢志摩地域観光圏整備計画

1. 計画の名称

「伊勢志摩地域観光圏整備計画」～「Re: 明日式伊勢志摩の創出」～

2. 目次

(1) 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

「お伊勢参り」で栄えた伊勢志摩地域は、三重県観光をイメージする観光地として位置づけられており、現在も「伊勢神宮」「美しい自然」「豊かな食文化」を目的に多くの観光客が訪れる地域である。今後も持続可能な観光地であるには、多様化した観光客のニーズに対応できる個々の地域の「点」の取組を充実し、さらにこれらの「点」を「面」として展開し「伊勢志摩地域全体」で取り組むことにより、「何度でも来たくなる」そして「ずっと楽しめる」周遊型・滞在型の観光地となる事を目指す。

(2) 観光圏の区域

三重県伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町

(3) 滞在促進地区の区域

伊勢志摩地域観光圏			
都道府 県名	市町 村名	滞在促進地区の名称及び 範囲並びに宿泊施設数	設定期由（主な観光資源とその概要）
三重県	伊勢市	名称：外宮周辺滞在促進地区 範囲：本町、岩渕、一志、八日市場、宮町、宮後、河崎、神久、佐八 御菌町、大世古、曾祢、吹上 宿泊施設数： 23件	伊勢神宮外宮：内宮におまつりされる天照大御神の食事を司る神様・豊受大御神をおまつりし、今から約1500年前から伊勢にご鎮座された。市内中心部に位置し、神域内には、奉納舞台と散策道が整備された勾玉池があることから、観光客のほか、市民の憩いの場としても親しまれている。秋の観月会や薪能など多くの奉納行事も開催されている。 また、平成18年度に石畳に整備された外宮参道は、地域住民による年間を通じておもてなしの案内所「ひだまり処」の運営や明かりイベント、お正月のおもてなし受入など様々な取り組みが住民主導で進められ、平成19年度には都市景観大賞「美しいまちなみ賞」を受賞した。 河崎の町並み：江戸時代に、お伊勢参りの人々を支え「伊勢の台所」として栄えた勢田川沿いの問屋街。陸上輸送に代わった現在では、当時の蔵を飲食店などのお店に改造し、町並みが整備されている。町並みの中心にある伊勢河崎商人館は、NPO団体により運営がなされている。

伊勢市	<p>名称： 内宮周辺滞在促進地区 範囲： 宇治中之切、宇治今在家、中之町、黒瀬、通、 宿泊施設数： 5件</p>	<p>伊勢神宮内宮：天照大御神をおまつりする内宮は、2000年の歴史を有し、日本人の総氏神様として年間400万人を超える参拝者をお迎えしている。 おはらい町・おかげ横丁：内宮の鳥居前町として賑わう「おはらい町」は、切妻妻入りの土産物店などの屋並みが美しい約800mの通りである。 通りの中ほどに位置する「おかげ横丁」は、40店舗以上のお店が集まる人気観光スポットである。</p>
	<p>名称： 二見周辺滞在促進地区 範囲：二見町茶屋、二見町松下、二見町江、池の浦 宿泊施設数： 23件</p>	<p>夫婦岩：伊勢神宮の禊の地として知られる二見浦は、国の名勝地にも指定され、二見興玉神社にある夫婦岩が有名である。 賓日館：皇族の宿泊施設を目的に建設された賓日館。その後、旅館・二見館として利用されていましたが、現在では、NPO法人賓日館の会が運営する文化施設となり一般に公開されている。</p>
鳥羽市	<p>名称： 鳥羽・小浜・安楽島地区 範囲： 鳥羽1丁目～3丁目・小浜町239～610・安楽島町162～1084 宿泊施設数： 41</p>	<p>御木本真珠島：鳥羽は世界の真珠ブランドであるミキモトの創始者で世界で初めて養殖真珠を発明した御木本幸吉の生誕地。養殖真珠のできるまでや海女の実演、世界のオールドジュエリーが見られる 鳥羽水族館：飼育数850種約2万点の世界的にも大規模な水族館。バックヤードツアーなど体験型の企画もある みなとまち散策：鳥羽ガイドボランティアの会が運営する鳥羽ガイドセンターでは無料で市内の隠れた名所や絶景ポイントなどを案内してもらえる。 鳥羽湾クルーズ：鳥羽の美しい海やリアス式海岸を船の上から見ることができます。船上バーベキューも楽しめます。</p>
鳥羽市	<p>名称： 南鳥羽地区 範囲：相差町・浦村町・石鏡町・国崎町・畔蛸町 宿泊施設数： 127</p>	<p>豊富な海の幸とリアス式海岸の美しい景観：伊勢湾口での様々な海の幸が取れる豊かな海があり、伊勢海老、あわび、浦村カキをはじめ1年中おいしい旬のものがある。また、市内全域が伊勢志摩国立公園に指定されており、深い入江を刻む鳥羽の海岸線や離島、深い青の海と緑のリアス式海岸が眺望できる。 海女小屋体験：相差かまどなど海女小屋体験ができる施設を有する 海の博物館：海に関する国の重要文化財など57000点の実物資料を展示。博物館の建物自体も公共建築100選になっている。</p>

鳥羽市	<p>名称：離島地区 範囲：答志町・桃取町・菅島町 宿泊施設数：45</p>	<p>有人離島：市内に4つの有人離島があり、のんびりとした島の海人文化に触れることができる。(神島)三島由紀夫の「潮騒」の舞台。手付かずの自然の宝庫。豊饒を祈るゲーター祭は県の無形民俗文化財に指定されている。(菅島)夏には海女の祭が行われるしろんご浜が神秘的。菅島灯台は明治6年イギリス人灯台建築技術者R.H.ブラントンによって建築された白亜の煉瓦造り。現存する洋式灯台としては、国内最古のもの。(答志島)「寝屋子制」など漁村生活風習や古墳が残る歴史のある島。地元の海女さんと触れ合える海女小屋がある。(坂手島)江戸川乱歩の妻・お隆が生まれた島。5月から6月にかけて、アヤマ池に紫色の美しいカキツバタが咲き誇る。</p>
志摩市	<p>名称：渡鹿野・的矢地区 範囲：①磯部町渡鹿野50～517 宿泊施設数：8か所 ②磯部町の310～939 宿泊施設数：7か所</p>	<p>温泉：渡鹿野温泉 ビーチ：パールビーチ テーマパーク：志摩スペイン村 神社：伊雑宮(伊勢神宮別宮、日本三大御田植え祭り) 史跡：天の岩戸、おうむ</p>
	<p>名称：賢島地区 範囲：阿児町神明73～950 宿泊施設数：16か所</p>	<p>温泉：伊勢志摩温泉 英虞湾：遊覧船、英虞湾夕日(日本の夕日100選)、円山公園</p>
	<p>名称：鵜方地区 範囲：志摩市阿児町鵜方1～400番地 宿泊施設数：16</p>	<p>横山展望台：英虞湾眺望ポイント 造の森横山：桜、花菖蒲等、ハイキングコース</p>
南伊勢町	無し	<p>■「体験」ワールドの町 漁業・農業・食文化・ものづくりの体験メニューが豊富にそろっている。 また、熊野灘に面したダイナミックな自然は、他の市とは異なった資源である。</p> <p>■歴史文化の町 南伊勢町には、歴史資料館「愛洲の館」や、平家の落人伝説があり、平家の子孫が拓いたといわれる集落「八ヶ竈^{がま}」が残っており、多くの伝説がある。また、当町は、偉人「河村瑞賢」の故郷でもある。</p>

(4) 観光圏整備計画の目標

	単位	20年(度)	21年(度)	22年(度)	23年(度)	24年(度)	25年(度)
年間入込客	千人	10,095	10,466	10,837	11,208	11,579	11,950
宿泊観光消費額	円	39,926	40,256	40,586	40,916	41,246	41,576
再来訪意向	%	94.1	95.4	96.6	97.7	98.9	100.0
外国人入込客	人	100,800	105,800	111,100	116,700	122,500	128,600

※ 数値の入手については、「三重県観光統計（暦年）」

※ 外国人入込目標については、毎年対前年5%増を目指す。

平成19年外国人入込96,087人＝伊勢市：61,857人＋鳥羽市：34,230人。伊勢市のデータは伊勢神宮、鳥羽市のデータは「鳥羽水族館・ミキモト真珠島・鳥羽カントリークラブ」からである。

(5) 観光圏整備事業に関すること

① 宿泊に関するサービスの改善及び向上に関する事業

- ・環伊勢湾周遊観光事業（平成21年度）

実施主体：（社）伊勢市観光協会

- ・2泊3日商品開発と支援体制づくり事業（平成20～22年度）

実施主体：鳥羽商工会議所

- ・個客化対応とパブリックスペース事業（平成20～22年度）

実施主体：志摩市観光協会会員

② 観光資源を活用したサービスの開発及び提供に関する事業

- ・平成伊勢志摩塾実施事業（平成20～24年度）

実施主体：（社）伊勢志摩観光コンベンション機構

- ・みなとまち文学館界限 旅の絵手紙文化体験交流促進事業（平成20～21年度）

実施主体：鳥羽商工会議所

- ・人的観光資源の掘起し事業（平成20～21年度）

実施主体：志摩市観光協会

- ・海女文化の継承と観光開発事業（平成20～21年度）

実施主体：志摩市観光協会

- ・「御食津国」伊勢志摩グルメ販売促進事業（平成20～21年度）

実施主体：志摩市観光協会

- ・スポーツコンベンション交流事業（平成20～21年度）

実施主体：志摩市観光協会

- ・エコ体験ウォーキング（平成20～21年度）

実施主体：志摩市観光協会

- ・“新たな食”発見事業（平成21～24年度）

実施主体：南伊勢町観光協会

- ・五ヶ所湾体験事業（平成21～24年度）

実施主体：南伊勢町観光協会

③ 移動の利便の増進に関する事業

- ・美し国誘客事業（平成20～24年度）

実施主体：（社）伊勢志摩観光コンベンション機構

④情報提供の充実強化に関する事業

- ・ 美し国観光情報提供事業 (平成 20～21 年度)
実施主体：(社)伊勢志摩観光コンベンション機構
- ・ 美し国まちナビプロジェクト (平成 20～24 年度)
実施主体：(社)伊勢志摩観光コンベンション機構
- ・ 青都とばPR事業 (平成 20～22 年度)
実施主体：鳥羽商工会議所
- ・ 市街地サイン整備事業 (平成 20～21 年度)
実施主体：鳥羽商工会議所

⑤その他の事業

- ・ 美し国おもてなし向上事業 (平成 20～24 年度)
実施主体：(社)伊勢志摩観光コンベンション機構
- ・ 市民力推進事業 (平成 20 年度)
実施主体：伊勢市
- ・ 相差 海女特産品開発事業 (平成 20～21 年度)
実施主体：鳥羽商工会議所
- ・ 観光従事者への接遇研修事業 (平成 20～22 年度)
実施主体：鳥羽商工会議所、(社)伊勢志摩観光コンベンション機構
- ・ 顧客満足度調査事業 (平成 20～22 年度)
実施主体：鳥羽商工会議所、(社)伊勢志摩観光コンベンション機構
- ・ 古民家再生事業 (平成 21～24 年度)
実施主体：南伊勢町観光協会
- ・ ホテル・旅館における観光圏内限定旅行業代理店業 (平成 20 年度～)
実施主体：各滞在促進地区内ホテル・旅館業者

⑥農山漁村交流促進事業（観光圏整備法第 9 条による農山漁村活性化プロジェクト支援交付金適用）

- ・ 農山漁村交流促進事業計画の区域：鳥羽市相差地区
- ・ 区域設定の考え方：活性化法第 3 条各号及び、第 5 条第 2 項第 3 号ハ

鳥羽市相差町は、太平洋に面しており、黒潮の影響で伊勢海老や鮑など海の幸が豊富で、相差漁港を拠点に海女、刺網、小型定置網、大型定置網、採藻漁、「鰯大敷（ぶりおおしき）漁」が盛んな漁村である。魚介の水揚げで賑わう相差漁港は人々の生活の拠点。448 世帯 1,547 人が居住しており、292 人が漁業に従事している町である。

また、既に相差町の海女（漁村）文化を体験施設として海女小屋「相差かまど」が漁港近く整備・運営されていることから活性化法第 3 条各号及び第 5 条第 2 項第 3 号ハを満たすを満たす地域としての区域設定する。

- ・ 区域面積：隣町の畔蛸町と含め 600ha
- ・ 事業名：海女文化交流促進事業
地域資源活用総合交流促進施設（食材提供供給施設 1 棟 33m²）
- ・ 市町村名：鳥羽市
- ・ 事業主体：鳥羽商工会議所
- ・ 実施年度：平成 21 年度

その他、平成 22 年度以降展開を予定している事業内容については、「伊勢志摩観光振興プラン（平成 19 年 9 月策定）」内の取組を予定。

(6) 計画期間等

平成20年度から平成25年度までの6年間とする。

また、3年毎に進捗状況を評価し、社会情勢、市場調査に基づき見直しを行う。

(7) その他市町又は県が必要と認める事項

1. まちづくり

- ・ まちづくり交付金制度を活用して、伊勢市：小俣町本町地区整備事業、伊勢市駅周辺整備事業を実施する。
(平成20年度)
- ・ 鳥羽市：佐田浜・岩崎周辺地区の妙慶川遊歩道整備、中心市街地への伊良子清白旧居移転事業を実施する。
(平成20年度)
- ・ 街なみ環境整備事業として、鳥羽市二見町の歴史的街なみ地区の道路美装化、小公園整備、案内板設置、住宅修景等の整備を行う。(平成14年度～23年度)

2. 道路

- ・ 第二伊勢道路R167号の鳥羽市内バイパス道路整備事業(～平成20年度～)
- ・ 一般国道260号志摩市内バイパス道路改良事業として志摩バイパスの整備(～平成20年度)

3. 港湾

- ・ 鳥羽港佐田浜地区において、「鳥羽マリンタウンプロジェクト21構想」に基づき、市民と観光客が行き交う魅力的な集いの空間の創造による海の玄関口の形成を目指し、離島観光船や湾内観光船の小型船だまりを整備(平成6年度～)

4. 海岸環境

- ・伊勢市宇治山田港二見地区において海岸事業として人工海浜等の整備を行う(～20、21年度～)。
- ・南伊勢町の五ヶ所港中津浜浦地区において海岸環境整備事業として人工海浜、遊歩道等の整備を行う(～21年度)。

5. 地域公共交通の活性化

- ・ 鳥羽市における地域公共交通総合連携計画の策定(平成20年度実証実験実施)
(鳥羽市において、鉄道とバス、バス間、離島への市営定期航路、南鳥羽へバス路線について、乗り継ぎの改善や路線の設定など、離島住民、観光客への利便向上を図るため、20年度に地域公共交通総合連携計画の策定を行う。特に高速船を導入したダイヤ改訂による実証実験やのを実施する。)

6. その他

- ・ 「美し国まちナビプロジェクト」により、ETC・携帯を活用した観光圏内の観光情報提供の充実を図る。(平成20年度)
- ・ 鳥羽市内において、元気再生事業(調査事業)により「海の駅のラウンドマーク化」、「海鮮市場の運営」、「海上ルートの開発」、「鳥羽市沖合3島を浮き行灯による光の演出し夜歩きの魅力向上」を実施し、観光圏整備事業へ発展させる(平成20年度～)。また、広域連携共生・対流等推進交付金を活用して小学生を対象とした離島での生活・漁業体験交流を推進する(平成20、21年度～)。
- ・ 地域自立・活性化交付金制度を活用し、宿泊施設の集積や交流施設等を拠点として、観光情報発信、観光案内、宿泊などの提供や自然文化等に関する体験の機会の提供などを行うことにより広域観光の活性化を図る(平成20年度～)。

(8) 協議会に関する資料等

別紙のとおり。

(9) 住民その他利害関係者の意見を反映させる措置及び反映状況

当機構は、伊勢志摩地域の官民約100団体により構成された組織であり、年2回の定期総会・理事会の他、必要に応じて「臨時会」の開催を行っている。

【参考】

観光企画委員会（各界代表者が重要項を議論）を7回、伊勢志摩観光振興プランのみの検討会の開催を計4回行いました。各代表者は、会議出席にあたり地元の代表として毎回参加されているので、賛成・反対を含めた発言を行い、当機構としては、これらの意見を受けて、政策決定をしている。

3. 参考資料

別紙：圏域図

伊勢志摩観光広域圏 圏域図

